

新入園児の取扱方(一)

一、やさしく、

東京女子高等師範學校 附屬幼稚園 雨 森 創

入園の最初は、満三歳から四歳に至る西東の辨へもない幼いもの、今迄は晝も夜も父母兄弟婢僕等の保護を受けて、入るにも、出づるにも、寝ぬるにも、食するにも、すべて、一人でするといふこととはない、極めて刺撃の少ない境遇にあつたものが、暫くの時間とはいへ共暖かな家庭を離れて、入園するのでありますから、幼児の見るもの聞くもの、すべて、新しくないといふものはなく、殊に、何十人と云ふ多い人々の仲間入をすることです。それから、幼児にとつては非常な境遇の變化であります。でありますから、成るべく刺撃を少なくし漸次幼稚園に馴れるにつれて、幼稚園は面白い楽しい場所であると思ふ様にさせることが第一の仕

四〇

事と思ひます。

幼児は變化を好むもので、新しく幼稚園に来ると云ふことは自身にも珍らしいし、且は又、自分が幼稚園に来る様になつた父母の喜びを見て、子供ながら何となく嬉しく感じ、第一日には喜び勇んで登園するのが普通であります。其時を利用して幼児の好むもの、即ち、摺紙、或は麥藁等で簡単な玩具を作つて置土産として幼児に與へ、それより自由に室内或は庭園にて遊ばせ、又は他兒の遊嬉をも參觀させて僅か一時間位で退園させます二日目にも同じく簡單なるものを與へて退園させます。三日目になると少し保姆に馴れて來ますから共に庭園に出て或は玩具の觀察などして退園させますかくして、一週間は全く自由にして、遅刻早歸り等も幼児の欲するままになし、兎に角、毎日登園さへすればよいと云ふことにします。第二週目に至つて、少しく時間を延ばし、在園時間は一時間半位のばし、第三週に至つて、始めて、辨當を

持つて來させることにします。食事(しょくじ)が終れば、暫らく、遊ばせて、任意(たんに)に歸ることを許します。お辨當(はんたう)は幼兒(えうじ)が一番喜ぶもので、是れが爲めに登園(とうえん)を喜ぶものが多くなつて來ます。かくして一學期(がくき)間は格別(かくべつ)これと定まつたことをさせませんし、何等(なんら)の要求(ようきう)をもしません。機會(きうかい)を見て、室内(しつない)室外(ぐわい)の所(ところ)を擇ばず、唱歌(しょうか)したり、遊嬉(いうぎ)をしたり、又玩具(またあそび)具(ぐ)を興へて遊ばせ、好まないものには強て何事(なにごと)もさせず。極めて自由にさせておきます。又上の組(かみぐみ)に兄弟(けいだい)のあるものは、他の組(ぐみ)で許す限り、共に、遊ばせ、多勢(おほぜい)の仲間(なかま)に入るのを好まないものには室内(しつない)で遊ばせ、室内(しつない)に入ることの出来ないものは玩具室(あそびぐらう)或は庭園(ていえん)で遊ばせ、兎に角(とにかく)次第(しだい)に幼稚園(えいごえん)に馴れさせることを專一(せんいつ)として、何事(なにごと)も強てさせる様(よう)のことはいたしません。

自由遊(じゆうあそび)の際(さい)には、成るべく自然物(しぜんぶつ)に接(せつ)することをつとめて、草(くさ)、木枝(きえだ)、木葉(きは)、花(はな)、石(いし)、砂(すな)、蔓(つる)、實(み)等(とう)自分の欲(ほつ)するものを弄(もてあそ)ばせます。又子供(またこども)をな

る可(べ)く健全(けんぜん)にさせようと思つて出來得る限り運動(うんどう)を奨励(しょうれい)し、鬼遊(おにあそび)、かけっこ等(とう)をしたり或は、時々校内(がうない)を一週(しゅう)し或は園外(えんぐわい)に連れて出ることもありま室内(しつない)にありては席(せき)を定めず、幼兒(えうじ)の好む所(このところ)に座せしめて万事(ばんじ)究屈(きうくつ)にせず、害(がい)なき限りは、極めて自由(じゆう)にさせ、幼兒(えうじ)が家庭(かてい)にあつた時(とき)の事を考へ合せて、成る可(べ)くそれに近い方法(ちかひはう)をとつて、名(な)を呼ぶにも家庭(かてい)に於けると同じ様(よう)にして居(み)ます。斯様(かやう)にして居(み)る中に段々(だんだん)と慣(な)れて來て一學期(がくき)保育(ほいく)の終り頃(ころ)になると全く幼稚園(えいごえん)の兒(こども)となつてしまします。

二、色分けの徽章

岡山市 岡山幼稚園 折井彌留枝

當園(だうえん)の新入幼兒(しんにゅうえうじ)は大抵(たいてい)一時(いち)に八九十人(にん)も許可(きょか)致(いた)します。昨年(さくねん)などは、百人(ひゃくにん)以上(いじやう)で、有(あ)りましたが、爲(ため)に四月(よしか)の新入當時(しんにゅうたうじ)は誠(まこと)に混雜(こんざつ)を極(きよく)めます。隨(したが)て新入園兒(しんにゅうえん)も困(こま)る事(こと)と存(ぞん)じまして子供(こども)は、各々(めいめい)早(はや)

自分の保母の顔を見覺へ、保母は、又自分の組の子供を覺える爲に年齢を以て、組分を致し置き、又、其組々に、依て、色分けをして、互に、知れ易くして居ります。假令へば一の組は、赤、二の組は、青、三の組は、黄、四の組は、緑といふ様に、各兒に、其組の色を以て、櫻の花形を切て、徽章の様に、胸につけてやります。そうして、其花の裏面には、幼兒の姓名を記して置きます。幼兒は金鵒勳章でも、胸にかけた心持で、大層よろこびます。又保母の方でも子供と同色の徽章を着けて居ります。隨て、子供は自分の受持保母を知り易く保母は幼兒の姓名を記憶し易く、實に便利で御座います。

又入園當日は、無論附添人があります、組の徽章をつけてやる時に、明日からは、此徽章を附けて、一人で勇で来る人は強い人で、附添人と一緒に来る人は弱い人ですと話して置くと、大抵の子供は一人で、来る様に、なりますので、保護者の

方でも大いに喜んで居るやうです。

四二

三、自然を待ちて

麹町區精華學校 幼稚園部 鈴木マサ

新入園兒の取扱ひ方に就き私共保母として、先づ第一に着手すべきことで、しかも中々困難なことは、幼兒の性質を調べることに思ひます。本校では成るべく個性に注意して教育を施すことを主義として居りますから、幼兒に就ても入園當時には先づ全力を盡して個性の取調べに従事致します。それには色々の手段もありますが附添人に就て調べるに都合のよい事もあります。中流以上の家庭では幼兒の世話を乳婆又は附添人に任せて居ります故、母親よりも附添人を慕ふやうになつてゐる子供も御座います。さういふ子供は長い間の習慣を急に破つて、保母と親しませるとはなかなか困難で、逆も時を定めてすることは出来ません。或る

時は強て離さうとして骨を折つて見たこともござ
いしましたが、割合に結果がよろしく御座いません
でした(下手と上手との違ひはありませうが)それ
故この頃は家庭と共同して、なるべく自然に馴れ
る時を待ち、いつまでも子供とこんくらべをい
たして居ります。其内には知らぬ間に少しづつ、馴
れて、いつか友達と一緒に遊び、一人で室内に居
れるやうになります。夫れ迄も保母はいつても其子
供に對して一層注意して種々なる方法を以て導く
様にするとは誠に大切なことではございますが
大體に於て自然を待つ方法が一番成功いたしましたや
うに感じました。其手段の一つとして可成子供に
愉快を感じさせる様にすることが必要と存じます
本校の幼稚園では舊入兒に新入園兒を出來得る範
圍に於て世話をさせともに遊ばせ、室内にて着席
させる場合にも兄弟知友のあるものは同じ腰掛けに
當分の間腰掛けて、共同世話に馴れさせるやう
にいたして居ります。

新入園兒は當分の間短時間保育することに大體定
めて居りますが子供の要求に依つて間もなく一人
二人づつ、辨當を持つて來させることにして、其れ
も隨意の方法で取扱つて居ります。

○「母様が入れて下さつたの」

安井哲子

母親として吾子を受せぬ者は御座いませんが、中には家事繁忙
の爲めに、子供に充分の注意が行届かず、止を得ず其世話を等閑
にする者と、又萬事召使任せとして、母親は餘り吾子の世話をせ
ぬ者とあります。私は近頃子供のお辨當に就いて面白い觀察を致
しました。子供の楽しみにして居るお辨當を全く女中任せにし
て、副食物の種類や分量などに少しも注意を拂はぬ母親を見出す
事があります。勿論中には質素の意味で、故らに子供に粗食をさ
せる方もありますが、私は此主義は賛成は出来ません。衣服は
木綿でよろしいが、食物は充分注意して衛生に適つた物を與へた
いのであります。

私の實驗しました一人の兒童は、お辨當を樂しみにして、食事
の時間が來ますと大喜びで、今日は何が入つてゐるであらうかと
蓋を取るや玉子やら「おぼろ」やら色取美しく排列されてあり
ます。につこり笑つて「お母様が入れて下さつたの」とさき嬉し
うに箸を取り、大きなお辨當に入つてゐる食物を、すつかり食べ
てしまひます。此子供には多くの兄弟がありますが、母様自身手
を下して、各兒にお辨當をこしらへて與へるそうであります。「母
様が入れて下さつたの」といふ子供の心には、母の慈愛が深く意
識され、にこした顔には、實に無限の感謝が表はれて居ま
す。少しの注意でかくも子供は喜ぶ者が、母の不精から女中任せ
に何事も省みぬ母親の無情は、兒童に代つて私の恨めしく感ずる
所であります。

(新女界)